

2024
5月31日号発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会
〒963-0201 郡山市大槻町字原ノ町3-1 TEL/FAX 024(954)7595ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

200号記念に向けて



会長 新里 昌一

福島放技ニュースが200号との事で、巻頭言の依頼が届きました。何を書いて良いか迷いましたが徒然に記載してみます。記念号に沿った気の利いた文章は出来ませんがお許してください。

発刊当初の様子などは思いもつきませんが、ネットのない時代だと思うので大変貴重な情報源だったと推測をいたします。しかし県技師会ホームページ掲載閲覧が出来てメールが飛び交う時代でも、県会員を繋ぐ大事なツールだと思っています。

2000年前後 (i-MACが売れた時代・2000年問題もありました) にメールのやり取りが盛んになって来た感があります。それにより、常に勤務先に電話をする手間が省けました。ただメールだけだと上手く伝わりにくい点多々ありました。勉強会や研究会も、ハイブリッド開催やWeb開催がなく現地のみでした。ただその後の懇親会等での絆=人との関わりは昔の方が強かったようにも思えます。

巻頭言を書くようになったのは副会長就任からで、当時は齋藤会長が真面目な文章、遊佐副会長が心優しい泣かせる文章で、私は何を書いて良いのか迷いました。結局、自分のその時々のおもった事柄を勝手に書かせて貰っています。当初は、頭から搾り出す作業でしたが、訓練のせいや頭の中の思いが自然と文字として出るようになりました (内容が良いか悪いかは別です)。

その中に戦争反対や平和等のメッセージも少し入れさせて貰っています。会長10年、副会長2年の間、自分でも良くもまあ文章作ったなどはつくづく実感します。これも来年度の県総会までなので大事にして行きます。

県ホームページには福島放技ニュースのバックナンバーが載っています。皆さんはご覧になった事があるでしょうか? 今回改めて調べましたら2005年の89号から全て網羅されていて大変驚きました。これはネットワーク委員会のご尽力のお蔭だと思います。

折角、編集広報委員や担当者が苦勞して作成したもので、職場にただ山積みにならないで手に取って読んでみてください。以前は、福島県立医科大学附属病院で配送作業を長年行っていました。最近になり、事務所で事務員が配送作業を請け負うように変わりました。

これからも県会員を繋ぐ架け橋となることを祈っています。

200号記念 特別企画

編集広報委員会にて第200号記念特集号を企画する中で、福島県診療放射線技師会の今までの歩みを当時のことを身をもって経験されている先輩方にお話を伺い、その記録を残そうと本テーマを設定いたしました。元福島県放射線技師会長の伊藤陸郎氏に企画について説明してご寄稿をお願いしたところ、ご快諾いただき本稿をご寄稿いただきました。現在の福島県診療放射線技師会を形づくる流れについて、少し思いをはせていただけますと幸いです。なお、伊藤氏にご寄稿をお願いするに際して、監事の齋藤氏に色々と仲介いただくとともにご寄稿もいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。また、第100号でもありました各支部からのご寄稿を今回は各委員長にお願いし、200号記念特別企画といたしました。先人に思いをはせ、先人の苦労や努力の上に我々があることを再認識できるのではないのでしょうか。(担当：久保、白土)

福島県放射線技師会の歴史

伊藤 陸郎

私が放射線技師会に関わった経緯は1985年刊行の「35周年記念誌」に記されていますが、先輩方を訪問し聞き取りを行ったことから始まっています。

技師会結成に精進された先輩方の努力に、後進として継続の必要を感じたからだったでしょう。

戦時下の病院勤務の方々が、各種作業の一つとしてレントゲン写真を撮ることも入っているのが実状だったようです。

そんな中で、職業の確立のため全国的に運動が展開され、福島県でも昭和23年6月20日、福島女子医専附属医院講堂で結成大会が開かれました。出席30余名となっています。

毎年、浜・中・会津と場所を変えながら開催され、研究発表や特別講演などあり、懇親を深めることが会員増につながったそうです。昭和32年には会員数が100名を超えました。

会員研究発表も年々増え、技術学会東北部会に参加、発表もどんどん多くなり、診療補

助業務だけでなく積極的に学術活動する団体に成長する様子が記されています。

私が会長に推された平成元年には、診療エックス線技師免許から診療放射線技師免許に移行する時期で、現役の技師も移行のための講習が必要となり、大雪の降る中、県内全域から郡山市に土日の講習を受け、全員移行ができました。現在の四年制大学の誕生は夢にもありませんでしたが、今日身近に学部の建物を見るたび今昔の感を感じております。

全国的活動の思い出の中では、平成9年、全国放射線技師学術大会を準備委員長として誘致開催に漕ぎつけたことや、全国理事を務める中で、平成11年、全国放射線技師地域選抜野球大会で優勝したことでした。

後輩方々の益々の発展を祈念する老輩です。

福島放技ニュース200号発行に寄せて

監事 齋藤康雄

福島放技ニュースが通算200号になり特別号を発行するという事なので、この機会にとバックナンバーを読み返してみた。編集に携わった頃を思い出しながら変遷を辿ってみたが、残念ながら1号からとはいかず、44号（平成9年3月発行）からの保存しかなく当初の構成や内容を知ることはできなかった。それでもその時々会の動静が読み取れ、読みふけてしまった。ニュースは会にとっては機関誌であるが、同時に記録として残すという歴史保存の側面もあるように思えた。

私が福島県放射線技師会（同時に福島県県南放射線技師会）に入会したのは昭和46年11月で、もう半世紀以上も前のことになる。その当時はもの申す会員も多くいて、元気の良い諸先輩に圧倒された。規模の小さい施設が多く、所属する技師も少なかったので、スキルアップや情報を得るために仲間を求めて入会する人も少なくなかった。そのようなことで連帯感もあり、組織率も高かったように思う。

昭和55年5月に職場が坪井病院に移ってから間もなくして、上司の山村稔さんが福島県放射線技師会会長に就任した。その際、推されて理事になってしまった時に、2年間ではあったが技師会ニュースの編集の手伝いをした。編集に携わったことがある。と言っても広報に対する知識もなく、ワープロなどはまだ一般には出回っていなかったもので、会長か

ら言われたことを印字機で活字を拾い文字に起こしていたこともあり、多くを伝えるのは難しかった。その後ワープロに変わったが、B4版片面で年2回程度の発行では会報を補間するまでには至っていなかったと思う。それでも、当時は情報伝達手段も少なかったので、会と会員を繋ぐ手段としては有用であった。

発行当初は、その年度毎に何年度何号としていて通算号数ではなかった。現在の号数の起点はいつからだったかはわからない。初期は名称も「技師会ニュース」だったが、「福島放技ニュース」に変わったが、時期も全く記憶になかったので会報で調べてみた。平成元年7月15日に第7号発行と載っていて、それ以前はニュース発行と記録されていた。

平成元年度に伊藤陸郎会長が就任されてからニュースを重要視され、ご尽力により名称の変更、構成、発行回数や編集体制等を見直し、平成6年にはA4版になり現在のような構成と年6回発行が定着した。巻頭言も会長と副会長が輪番で執筆するようになった。私も副会長に就任した平成13年7月発行の68号から巻頭言を担当しなければならなくなったが、機関誌として会の姿勢や方針をどう伝えれば良いのか、題材や話題の切り口には苦勞した。手持ちのファイルで、平成18年12月に発行した第100号特集号の巻頭言を書いていたのを見つけたが、18年も前のことですっかり忘れていた。

その後も、隔月の定期発行は各位のご尽力により連綿と続き200号発行を迎えた。改めて、役員及び編集担当委員の使命感とそこにご苦勞に敬意を表する。

“継続は力なり” 200号記念

県北協議会 委員長 池田正光



この度、福島放技ニュースが200号の記念号を発刊するにあたり、これまで発刊に関わってこられた先輩役員の皆様、そして担当されておられた編集広報の皆様の並々ならぬご苦勞に、改めて感謝いたしますと共に、心より敬意を表します。

この原稿作成に当たり、私が当時、県北の編集広報委員として関わっていた平成18年12月発行の「100号記念号」の斎藤重夫元支部長、また伊藤陸郎元会長の記事を読み返し、懐かしい思いが蘇ってきます。

この「福島放技ニュース発行」にあたっては、伊藤陸郎元会長を抜きにしては語れないと思っております。伊藤元会長は当時から“会員への情報誌として定期的に継続したい”との強い思いで取り組んでおられました。発行当初はそれまで会長が変わるごとに発行しては途絶え、先ず年間4回の定期発行を目指したそうです。平成3年の法人認可後は各支部に編集持ち回りをして発行回数増と紙面の充実を図り、平成6年度には、現在のA4版、年6回の発行に漕ぎつけたという事です。

その当時から県技師会活動の情報発信源として、その時々タイムリーな内容を担当者が責任感をもって作成に取り組まれていたそうです。これまで続けてこられたのは、この熱意をもって引き継がれた担当者の皆様の「継続の力」の賜物であると思ひますし、この活動の積み重ねによって、今の「公益社団法人の礎」があるのだと確信いたします。

これからは、時代の流れにより、300号目は「電子版」の方向になっていくのだと思ひますが、「継続は力なり」との如く、これからも継続して行って欲しいと念願しております。

福島放技ニュース第200号に寄せて

会津地区協議会 委員長 鈴木 雅 博



「100号の発刊を迎えることができましたことは県技師会の弛まぬ活動の継続の証明でもあります。今後とも大切にしていきたいものです。」これは、平成18年の福島放技ニュース第100号記念の際に、会津支部の秦支部長が寄稿した文章になります。200号の発刊を迎えた今、思うことは全く同じことです。先輩方が築いたものを引き継ぎ、会員にとって有意義と思える活動を継続しながら、300号に繋げていければと思います。

医療技術は日々進歩しているため、診療放射線技師は常に最新の知識や技術を学ぶ必要があります。学会や研修会に参加したり、論文を読んだりすることで、自己研鑽に努めることが求められます。会津地区は会津医療圏・南会津医療圏の広域な範囲をカバーしておりますが、会津地区協議会としての活動はどうしても都市部（会津若松）に集中してしまいがちですが、全ての会員が取り残されることが無いよう、今後も福島放技ニュースを通じて情報発信を行っていきたく思います。

福島放技ニュース、発刊200号を記念して

県南地区協議会 委員長 鍵谷 勝



福島放技ニュース発刊200号達成、心よりお慶び申し上げます。

第1号が昭和34年10月ということで、64年以上にわたり発行し続けてきたことには、本当に頭の下がる思いです。また、それを途切れることなく続けてきた歴代のご担当の皆様には心から感謝いたします。私が生まれる前からこのような活動が行われてきたことは、本当にすごいことだと改めて感動しております。

私も少なからず関わらせていただいております、毎号の記事集めが本当に大変であることを理解しています。また、会長、副会長等定期的に寄稿していただいております、診療放射線技師会が一丸となって取り組んできた証であるとも思っています。

話は変わって、時代の流れはとても早くデジタル化も急速に進み、技師の業務自体も変化してきています。今後、診療放射線技師は増えていくと思いますが、患者数はどんどん減り検査数も減少するでしょう。新たな時代に向けて、福島放技ニュースは、情報提供や提案などが出来る一つのツールになると思います。そして今後も発展させながら、会員のみならず外部へも情報発信が出来る手段として、引き続き発刊していただきたいと強く願っています。

好きこそものの上手なれ！

浜通り地区協議会 委員長 名城 敦



福島放技ニュースの発刊200号、おめでとうございます。

歴代の編集広報委員の皆様のご苦勞があつてのことだと推察いたします。

100号から200号の間は、まさに激動の時代だったのではないのでしょうか？2006年からの約18年間は、震災や災害・パンデミックなど、社会情勢が不安定な時代でした。我々、診

療放射線技師の仕事内容も法律の改正などもあり、単に画像を撮影・提供をすることにとどまらず、読影の補助等も求められるなど、変革の時代でもありました。この辺りのことは詳しい諸先生方にお任せするとして、私のことを書いてみます。私は、医療に興味があるわけでもなく、写真に関係する仕事ができ国家資格取得できるという理由で、この業界に足を踏み入れました。要は単に写真が好きだからでした。薬剤の調合や現像液の温度次第で写真がいかようにも変わるというのは私の楽しみ（娯楽）でした。

写真がアナログからデジタルに変わり現像が画像処理となりましたが、私の得意分野として現在に至っています。「好きこそものの上手なれ」あることに熟達するには、それを楽しめるようになることが肝要であるということです。技師会には、私の好きを応援していただきましたし、これをお読みの皆様の好きも応援していただけたと思います。福島放技ニュースは、その最たるツールだと実感しております。会員あつての技師会、これからも会員を応援し続ける技師会であり続けていただきたいと願うとともに、福島放技ニュースのさらなる充実と継続を期待しております。

～ 県会長 + JART地域理事 「オンレコ」 ～

1 「第5回東北会長会議」 3月28日

Web開催で東北会長会議を開催して、TCRT2024企画委員会の企画承認をおこないました。今後はTCRT2025の企画についても進めていきます。

2 「会計監査」 4月25日

県事務所において執行部会・財務担当理事・事務員会計担当者・監事・税理士を交えて会計監査を行いました。監事からは幾つかご指摘をいただき謙虚に修正をしていきます。

3 「総会に向けての準備」

総会議案書については各理事からのご協力をいただき完成しました。太田西ノ内病院でDVD作成をしましたが、表面に印刷できないタイプなので無地となりました。

その他、下準備を笹川事務員が行い、5月5日には会報等を含めて発送作業を行います。

地区だより

浜通地区

「令和6年度 浜通り地区協議会 全体会」
開催される

4月20日（土）にいわき市医療センターにて開催され、参加総数は19名でした。

特別講演では、公立大学法人福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科の田代雅実助教より「診療放射線技師が身につけておくべき災害対応スキル」についてご講演いただきました。災害対応の原則であるCSCATTTについて理解を深め、経時活動記録（クロノロジー）を実際に書く練習では、聞き取りながら正確に記録することの

難しさを実感しました。最近も大きな地震が起きているので、他人事ではなく、当事者意識をもって災害に備えておくべきであると感じました。自施設のマニュアルを見返し、報告様式を確認するよい機会となりました。（白土）



本号では「福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科だより」はお休みとさせていただきます。

編集後記

初夏の日差しに、木々の緑が映える気持ちのよい季節になりました。今回、はじめて編集実務を担当させていただきました。記念すべき200号、皆様方のご協力を得て、無事に発刊まで漕ぎ着け、胸をなでおろしています。ご協力ありがとうございました。

（白土）